

## 第1回

# 「多摩の代官を語る」

平成9年（1997）

"江戸時代の代官"というと、TV等の影響で年貢の収奪や取締りに狂奔した「悪代官」というイメージがあります。しかし、実際の代官は、江戸幕府の直轄領を治める地方行政官として、地域の民政を推し進めていった「地方巧者」でした。

この講座では、江戸時代の各時代に多摩地域で活躍した代官たちと、その配下で地域に常駐する手付や手代などを含めて「人物の歴史」として事蹟を学びました。

- |      |           |   |    |
|------|-----------|---|----|
| □第1講 | 7月13日(日)  | 江戸時代の代官像—大久保長安と八王子・府中代官たち—                  | 8  |
|      |           | 講師 村上 直（法政大学名誉教授）<br>村上 直「『多摩の歴史講座』開講にあたって」 |    |
| □第2講 | 6月22日(日)  | 多摩を治めた代官—高室代官と有力農民—                         | 11 |
|      |           | 講師 馬場 憲一（法政大学兼任講師）                          |    |
| □第3講 | 8月10日(日)  | 多摩が生んだ名代官—田中休愚と川崎平右衛門—                      | 12 |
|      |           | 講師 村上 直                                     |    |
| □第4講 | 9月14日(日)  | 開国と代官—江川太郎左衛門と松村忠四郎—                        | 14 |
|      |           | 講師 馬場 憲一                                    |    |
| □第5講 | 10月12日(日) | 幕末維新の代官と豪農—多摩の近代への道—                        | 15 |
|      |           | 講師 米崎 清実（東京都江戸東京博物館学芸員）                     |    |

定員 70名

場所 多摩交流センター

☆第1講と2講が都合により入れ替わった。



この講座をもとに『多摩の代官』（たましん地域文化財団）が刊行されております。

平成9年7月13日 午後1時30分～3時30分

## 第1講 江戸時代の代官像

—大久保長安と八王子・府中代官たち—

村上 直（法政大学名誉教授）

はじめに

江戸時代とはどのような時代か  
江戸幕府を支えた代官たち

### 1 関東における多摩の位置

- A 関東の地域的特質と武蔵国
- B 武蔵国多摩郡の地域性—風土と歴史—
- C 近世以前と以後の多摩郡の位置

### 2 代官とはなにか

- A 幕府の職制としての代官の位置
- B 武功派家臣と吏僚派家臣…番方と役方（地方巧者）
- C 代官（郡氏）の職務内容と支配領域
- D 代官就任条件と手付・手代

### 3 小田原北条氏から徳川氏の領国へ

- A 戦国大名小田原北条氏と滝山・八王子城
- B 近世大名・江戸徳川氏と八王子代官・千人同心陣屋
- C 家臣団の知行割と寺社の寄進
- D 土豪代官より吏僚代官へ

### 4 徳川氏の関東入国と代官頭大久保長安、大久保長安の系譜と代官頭への道

- A 甲斐・武田家臣団と蔵前衆（代官頭）
- B 八王子・小門陣屋—青梅・森下陣屋
- C 関東十八代官（八王子代官）と八王子千人同心の世襲

D 大久保長安の地方文書（寛文7年・水帳、その他）



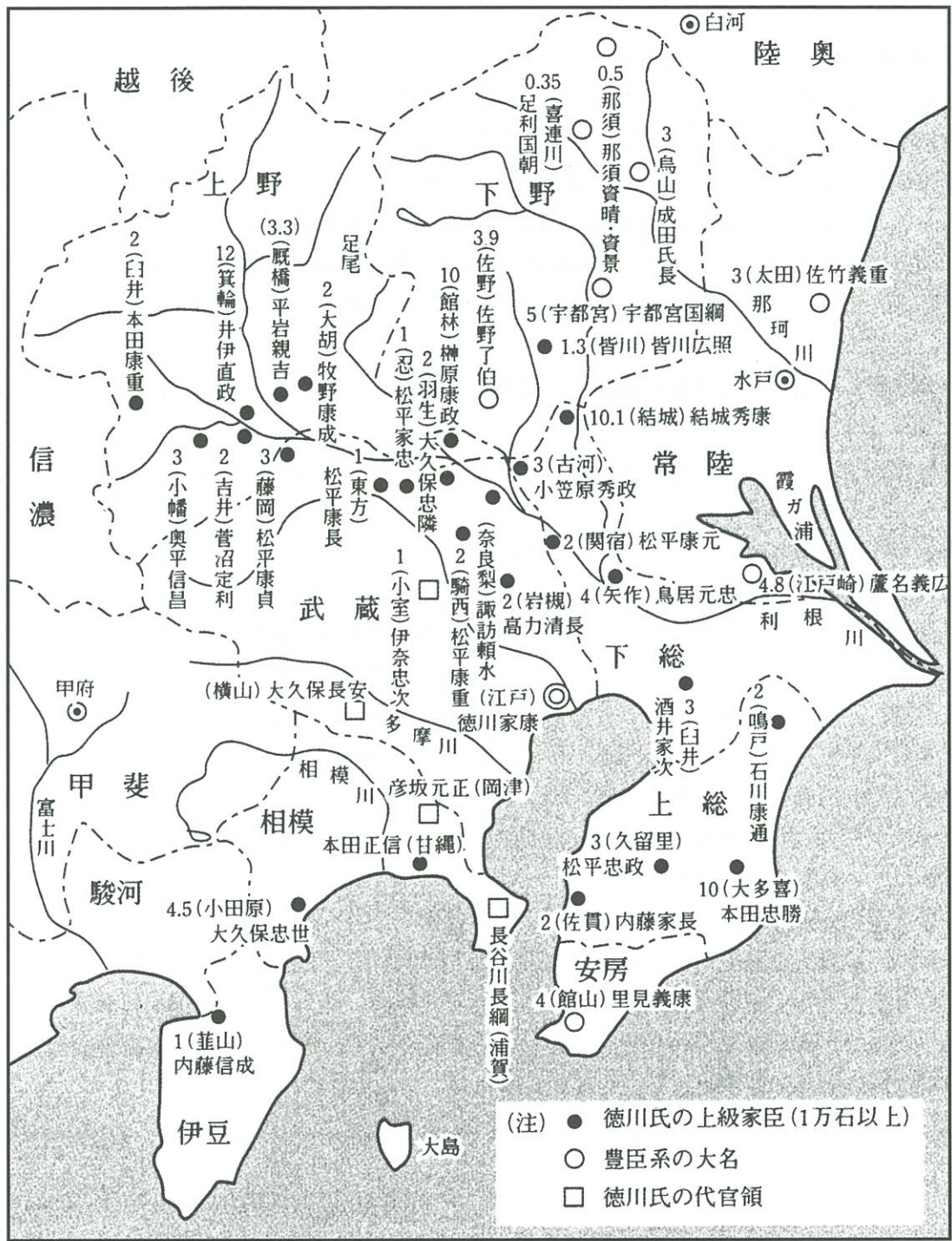
大久保長安木像（佐渡・大安寺蔵）

### 5 『新編武蔵風土記稿』と府中御殿

- A 『武蔵田園簿』『新編武蔵風土記稿』と代官支配の分布
- B 多摩における府中の位置（府中・日野・八王子との関係）
- C 府中御殿と八王子陣屋

### 6 江戸幕府創業期における代官頭大久保長安

- A 幕府・二元政治→年寄衆本多正信・正純と小田原藩主大久保忠世・忠隣<sup>ただちか</sup>
- B 幕府金・銀山の開発（石見銀山・佐渡金山・伊豆金山）—幕府財政の拡充
- C 大久保長安・死後の誅罰とその真相



徳川氏関東入国時の上級家臣・代官頭の配置図 (『論集 関東近世史の研究』より)

## 「多摩の歴史講座」開講にあたって

村上 直（法政大学名誉教授）

「多摩の歴史講座」が開講されるにあたり、第1回のテーマは「多摩の代官を語る」であった。第1講で代官頭の大久保長安を中心に、第3講で、多摩の生んだ名代官（支配勘定格）として田中休愚と川崎平右衛門を取り上げた。私が多摩の代官に取り組んだのは昭和34年頃で、かなり前からの研究テーマである。しかも昭和55年2月発行の『多摩のあゆみ』第18号の特集が「多摩の代官」である。歴史講座はこの時の座談会がベースになっているといってもよい。その編集・企画は「幕藩体制の直轄地、多摩の政治・経済・文化・生活等を、直接支配にあたった"代官"を通して見直してみたい」ということであった。

それから17年後のこの歴史講座は、戦乱から徳川の「平和」へという江戸時代の関心も高まって、大いに注目されるようになった。

平成10年には「八王子宿の基礎を作り上げたと言われる大久保長安が静かなブームを呼んでいる。雑誌や小説などで取り上げられる機会が急増しているほか、テレビの時代劇番組にも登場した」。さらに翌11年には「多摩が生んだ江戸時代の代官田中休愚、再評価の動き」という見出しの新聞記事（多摩版）も目にとまるようになった。

江戸時代の「代官」といえば悪代官の登場が通例である。戦乱の武将よりも平和の民政官を重視していこうと、私は、かつて『代官—幕府を支えた人々』や『江戸幕府の代官群像』という本を出版したことがある。しかし、それにも増して、歴史講座の内容をまとめて平成11年に刊行した、村上直・馬場憲一・米崎清実著『多摩の代官』（たましん地域文化財団発行）は反響が大きいように思う。幕府領（天領）の村や町が多かった多摩地域がどのように形成されていったか、多摩の代官の事績を知る入門書としても注目されたといってもよいだろう。

最近、私はよく「江戸時代の代官の実像と虚像」という題で講演してもらいたいといわれる。民政官や地方巧者である代官の事績の虚実に多くの人が興味をもっているからではなかろうか。世界文化遺産に登録された石見銀山。さらに佐渡金山や伊豆金山を開発した大久保長安にまつわる史実を知りたいという希望もある。多摩の地域社会の歴史を、代官の足跡から理解していくことも重要ではないかと思っている。

平成9年6月22日 午後1時30分～3時30分

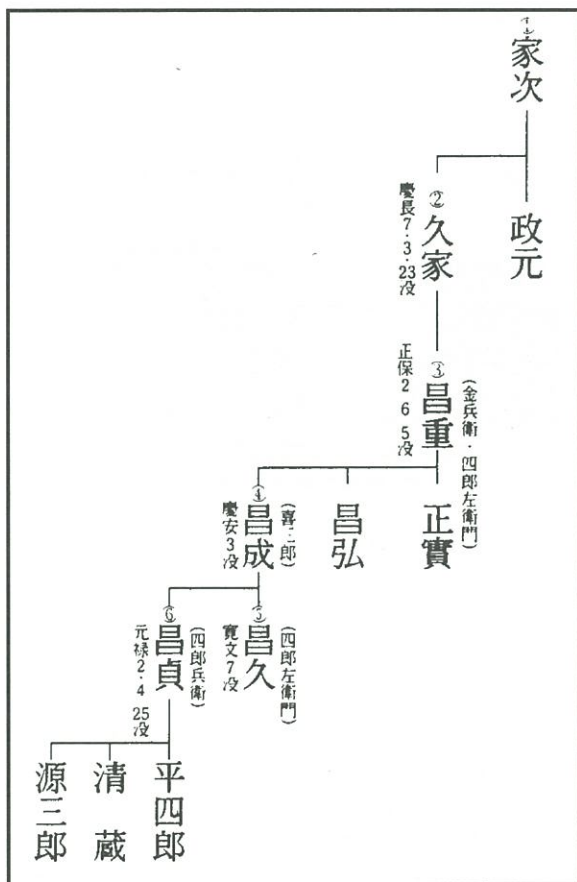
## 第2講 多摩を治めた代官

—高室代官と有力農民—

馬場 憲一（法政大学兼任講師）

### 1 高室代官の系譜と略歴

- 〔始祖〕 平右衛門家次
- 〔二代〕 豊前久家（？ - 1602）
- 〔三代〕 金兵衛（四郎左衛門）昌重（？ - 1645）
- 〔四代〕 喜三郎昌成（？ - 1650）
- 〔五代〕 四郎左衛門昌久（？ - 1667）
- 〔六代〕 四郎兵衛門昌貞（？ - 1689）



高室家系図（『多摩の代官』より転載）

### 2 高室代官の在地支配

#### ①高室代官の支配地

四代目の喜三郎昌成の時代には武蔵国多摩郡（79か村）、入間郡、高麗郡、

小企郡、大里郡、男衾郡、幡羅郡、榛沢郡、秩父郡など9郡181か村の広い範囲、武蔵国北西部の山間地域に集中分布。支配高は合計で3万1325石余。

#### ②高室代官の多摩郡における陣屋

元和9年（1623）前後、多摩郡下壺分方村諏訪宿に居住。青梅町森下に陣屋。

### 3 土豪的農民吉野氏の郷村支配

#### 吉野氏の系譜

- 〔初代〕 織部之助正清（？ - 1636）
- 〔二代〕 太郎右衛門
- 〔三代〕 庄右衛門

### 4 高室代官の在地支配の終焉

- ・天和元年（1681）2月18日、江戸幕府が勘定所役人4名に命じて前年分からの全代官の未進年貢の検査を始める。
- ・天和3年（1683）2月、下師岡村の太郎右衛門が名主役を兼務していた今寺・新町両村の未進年貢金が16両余に達し、田地屋敷を処分してその処理に当たっている。
- ・天和3年（1683）3月、幕府が高室代官を罷免する（しかし免職後も元禄元年（1688）までは未進年貢の徴収を命ぜられ、その徴収に追われている）。

平成9年8月10日 午後1時30分～3時30分

## 第3講 多摩が生んだ名代官

— 田中休愚と川崎平右衛門 —

村上 直 (法政大学名誉教授)

- 1 江戸時代中期以降の代官像  
 享保の改革  
 江戸幕府の基礎の総仕上げ、解体の端緒→画期  
 初期の代官：地方巧者  
 中期以降の代官：土豪的代官→吏僚代官

- 2 三田村鳶魚の「八州取締出役」と「御代官改造論」  
 柴野栗山、萩生徂徠「もっと禄を高くして3千石以上の旗本として仕事をさせるべき」を引用、司法権・警察権を持つ天領の代官の見識を評価。  
 …農政を重視しながら代官が力を持つことを好まない幕閣が存在する矛盾。

- 3 8代将軍吉宗の享保改革と諸政策—享保10年代官制度の改革—  
 ・機構改革、給人代官から吏僚代官へ

- 4 町奉行 大岡越前守忠相の地方支配

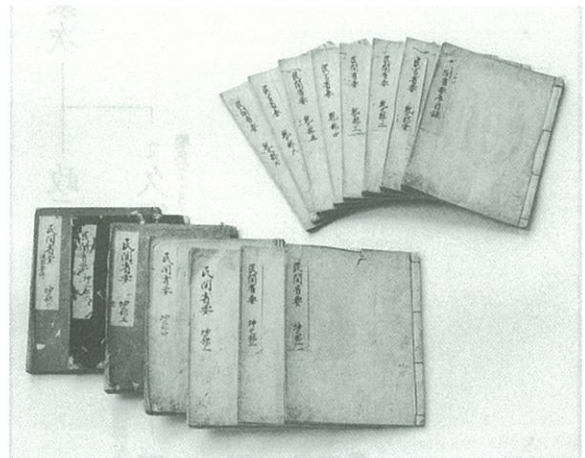
- ①享保改革と人材登用  
 ②大岡越前守グループの地方巧者  
 家柄にこだわらず、有能な人物を登用（岩手藤左衛門、萩原源八郎、小林兵六、野村時右衛門、田中休愚、蓑笠之助、田中休蔵、上坂安左衛門、川崎平右衛門）

- 5 『玉川参登鯉伝』（日浦禄）による3人（田中休愚・川崎〈平右衛門〉定孝・石井

万甫〈至穀〉)

『玉川参登鯉伝』：日浦禄が書いた、多摩川流域の出身で民間からの実績によって取り立てられて幕府の役人になった3人（田中休愚、川崎平右衛門、石井万甫〈至穀〉）を顕彰した本。

- 6 田中休愚（丘隅）と『走庭記』・『民間省要』



『民間省要』（平川靖二氏蔵）

田中休愚：寛文2年（1662）3月15日、武蔵国多摩郡平沢村に旧家窪島家の次男として生まれる。天和3年頃、東海道川崎宿本陣名主田中兵庫家の養子となる。正徳元年隠居し江戸に遊学、萩生徂徠の門に入る。享保4年（1719）、『走庭記』成る。享保6年、江戸時代中期の幕府農政に関する意見書『民間省要』成る。師であった奥坊主成島道筑を通して将軍吉宗が上覧。享保8年、

荒川通川除御普請御用。享保11年、酒匂川治水工事、記念の文命堤碑を作る。享保14年、3万石の支配勘定格に任命。享保14年12月22日死去。

## 7 川崎平右衛門と武蔵野新田開発



川崎平右衛門肖像画（川崎英子氏蔵）

川崎平右衛門定孝：元禄7年（1694）3月15日、多摩郡押立村の農家で生まれる。元文4年（1739）ごろから実力を発揮し多摩川の治水工事を勤めるようになる。寛保3年関東の内3万石支配を仰せつかる支配勘定格となり、大岡越前守支配下におかれる。寛延2年（1749）、美濃国本巢郡の輪中地域に派遣され治水工事を行う。宝暦12年石見国大森代官に任ぜられ、明和4年（1767）4月15日、勘定吟味役・諸国銀山奉行兼任となる。明和4年6月6日没。

## 8 武蔵野新田の開発（82ヶ村）

\*貨幣経済の積極的利用による開発

\*武蔵野新田を北と南に分けた開発

南の陣屋（関野新田）：平右衛門手代高木三郎兵衛をおく。後に高木は平右衛門のことを書いた『高翁家録』を著す。

北の陣屋（三角原）：平右衛門手代矢島藤助をおく。

## 9 新田育成策、扶食普請（御救普請）

\*玉川上水の改修と、小金井桜植樹

\*美濃国から梨を輸入→多摩川梨

## 10 美濃国 本巢郡 本田陣屋（4万石支配）

## 11 石見国 大森代官

波根湖の干拓 鉾山開発

## 12 多摩の代官の性格—田中休愚と川崎平右衛門—

\*両方とも多摩の出身であるが生まれ年が32年も違う。

\*新田開発について

休愚…反対。秣場をなくせば肥料がなくなり、耕作ができない。

平右衛門…推進。公金運用、金肥投入、貨幣経済の利用によって開発と経営を進めればいい。

\*共通点：水利土木・治水に精通

\*顕彰碑が多い

…江戸時代から、多摩の人々が彼らの名代官としての存在をよく知っていたのではないか。

## 参考文献

田中休愚著 村上直校訂『民間省要』有隣堂 1996年

平成9年9月14日 午後1時30分～3時30分

## 第4講 開国と代官

—江川太郎左衛門と松村忠四郎—

馬場 憲一（法政大学兼任講師）

はじめに

## 1 江川太郎左衛門英龍の事績

## ①略歴

- \* 享和元年（1801）江川家 35 代当主英毅の次男として伊豆韮山に生まれる。
- \* 天保6年（1835）代官職を継ぐ。支配地は武蔵・相模・伊豆・駿河で5万4千石。
- \* 天保7年（1836）「郡内騒動」の影響で、相州津久井県日連村に打ちこわしが波及。出陣し鎮圧。同時に支配地を巡察し、豪農層から米穀を放出させ、金銭を貸与し窮民救済に努める。
- \* 天保8年（1837）刀剣行商人に扮し、民情視察のため甲州・武州・相州を巡回（「甲州微行」）。
- \* 安政2年（1855）江戸屋敷で死去。



江川坦庵筆「甲州微行図」

## ②海防問題への造詣

## \* 西洋砲術への関わり

- ・ 天保4年頃～8年 水戸藩抱え蘭学者幡崎鼎から西洋事情や砲術を学ぶ。
- ・ 天保9年（1838）目付鳥居耀蔵とともに相模・阿波・上総および伊豆の海岸巡視に赴く。
- ・ 天保12年（1841）幕府は江川英龍に高島秋帆の西洋砲術を伝授させ、翌13年西洋砲術の教授を許可する。
- ・ 天保14年（1843）鉄砲方兼帯、幕府の軍事顧問として軍事改革を推進。
- ・ 弘化元年（1844）鉄砲方兼帯を解任され、以後、韮山において砲術の教授と大砲鑄造に専念。
- ・ 嘉永6年（1853）台場備砲製作を命ぜられ、湯島製砲場を設立。反射炉築造を命ぜられ着手。
- \* 農兵設置と台場設置
  - ・ 嘉永2年（1849）英艦アリナー号の下田入港の折、下田に赴き交渉にあたる。幕府に下田警備策と農兵設置を建議。
  - ・ 嘉永6年（1853）ペリー来航。勘定吟味役格に任ぜられ、海防の議に参画。
  - ・ 安政元年（1854）台場築造を命ぜられ、品川沖に、台場6基を設置。

## 2 多摩郡江川代官領の所領構成

- \* 多摩郡の江川代官領は文政6～7年（1823～24）と天保3～4年（1832



～33)の二期にわたって設置。天保12年以降、多摩郡の支配高は4万石代を越え、江川代官総支配高の45～59%。

- ・多摩郡の江川代官領は郡域内でも北西部に集中していた。
- ・多摩郡の江川代官領は非一円的で郡内分散・錯綜型の所領によって構成。

### 3 多摩郡江川代官領の支配システム

#### ①代官所下達の手紙・廻状類と伝達

- \*多摩郡江川代官領の支配は、江戸本所

にあった江川代官所から触書・廻状類が各支配村落に発せられ実現。

- \*触書・廻状類の伝達にあたり、多摩川中流域には甲州道中が使用され、秋川および多摩川上流域へは甲州道中の日野宿経由での順達方式を採用。

#### ②代官所役人の廻村状況

- \*廻村形態は分散・錯綜型の所領支配を補完するような性格のものでなく、在地の事情により必要に応じて実施。

平成9年10月12日 午後1時30分～3時30分

## 第5講 幕末維新の代官と豪農

—多摩の近代への道—

米崎 清実 (東京都江戸東京博物館学芸員)

### はじめに

多摩=将軍のお膝元。直属の家臣団(旗本御家人)の知行地、相給村落が多い。村役人と代官を仲介する組織…組合村  
→自治意識→自由民権運動の基盤へ

### 1 江戸時代後期の多摩の社会状況

### 2 社会状況をめぐる幕府と村の対応

- \*小商品生産の展開と農村荒廃

特産地の出現

金肥の使用→借金から土地を手放す

→農村荒廃、無宿人、浪人もの増加、治安の悪化

農間渡世が盛んになる。

- \*多摩地域

宝暦・天明期には打ちこわし、村方騒動も起きている。

→寛政の改革、罰則強化、関東取締出役設置



「桑都養蚕の図」(『桑都日記』国立公文書館蔵)

村の中でも、自治意識が芽生える。

…村同士の議定の組合の発生。幕府によって作られたわけではない。

### 3 多摩の豪農

- ①村役人・豪農の政治的役割
- ②地域自治と豪農
- ③地域社会における豪農の活動と交流

\*読み書き能力の高さ、高い自治意識

名主日記の書き手：組合村惣代

旧記（村の歴史）の執筆→郷土意識

\*組合惣代クラスの名主同士は、漢詩、俳諧、華道、剣術など文化的な交流、婚姻関係などでも繋がる

#### 4 幕末維新期の政局と多摩地域

①開国と多摩の村々

②江川太郎左衛門の継続願いと村々

③農兵隊と兵賦

④八王子陣屋設置と反対運動

⑤御一新と多摩の人々

江川太郎左衛門の継続願い

…ペリー来航以後の江戸周辺沿岸警備

→藩領が増える（警備費用としての

藩領への支配替え）。

→この動きへの警戒策としての「継続願い」

農兵隊の必要

沿岸警備→地域の治安維持

ほとんどが村役人の子弟

活躍…武州世直し一揆の鎮圧

地域の治安維持には進んで活動する。

「幕府のためより地域のため」

改革組合村

→維新政府に制度的に引き継がれていく（大区小区制）

おわりに

1800年代を通じて培われてきた自治意識の高さが、多摩地域の村々にはある。